

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	カノアスFC元今泉		
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和6年11月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	サッカーを活用した療育に特化し、楽しみながら発達支援を受けられる環境を提供。運動療育の中でも、協調性やルール理解、空間認識能力の向上が期待できる。	結果にこだわるのではなく、「最後までやり抜く」「挑戦する楽しさ」を伝えることで、自己肯定感を高める指導を意識。	子どもたちの運動機能や社会性の変化を記録・分析し、より効果的なプログラム開発につなげる。 公認心理士などの専門職と協力し、サッカーの動きを通じた発達支援の質をさらに向上させる。
2	2つの事業所が合同で活動することで、異なる環境の子どもたちが関わる機会を増やし、社会性や適応力の向上を支援。	初めて会う子同士でもスムーズに関われるよう、最初にペアやチームを決め、自己紹介やアイスブレイクの時間を設ける。 競争する場面と協力する場面をバランスよく組み込み、対戦の中でも「励まし合う」「助け合う」経験を増やす。	「チーム目標」を設定し、試合や練習の中で協力する意識を高める仕掛けを作る。(例:「みんなで10本パスをつなぐ」「1人1回はシュートを打つ」など) 2事業所のスタッフ間で情報共有を密にし、それぞれの子どもの特性や支援方針を統一することで、どの活動でも安心して参加できる環境を作る。
3	一人ひとりの発達段階や個性に合わせた細やかなサポートを実施。子どもの特性に寄り添い、安心できる環境づくりに努めている。	ルール理解が苦手な子には個別で説明する、途中で疲れてしまいう子には休憩を挟むなど、それぞれの特性に応じた配慮を行っている。	より手厚い支援ができるよう、スタッフの配置や役割分担を工夫し、子ども一人ひとりに寄り添う時間を増やす。 保護者向けに、練習の様子や成長の過程を動画や写真で記録し、子ども自身の成功体験を振り返る機会を提供。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動支援や保護者会の開催による保護者同士の連携について	事業所主導での保護者会の開催が少なく、保護者同士の交流機会が限られている。	保護者交流会を開催し、療育の情報共有や子どもの成長について話し合う場を作る。 負担を減らすために、オンライン(Zoom)での開催も検討。 Instagramや公式LINEを活用し、保護者向けの情報発信を強化。
2	放課後児童クラブや児童館との交流、障害のない子どもとの活動機会について	放課後等デイサービスの特性上、障害のある子ども同士の活動が中心となり、一般の児童と交流する機会が少ない。 放課後児童クラブや児童館と連携する仕組みが確立されておらず、合同イベントなどの実施が難しい。	地域のサッカークラブと協力し、障害の有無に関わらず一緒に楽しめる「交流サッカーイベント」を企画。 一般の子どもたちも参加できる「親子サッカー」や「スポーツ交流会」を開催し、自然な形で交流を促進。
3	非常災害の発生に備えた避難・救出訓練の実施について	避難訓練の内容や実施日について、事前・事後の報告が十分にできていないため、保護者がどのような訓練が行われているか把握しにくい。 保護者が「災害時どこへ迎えに行けばいいのか」「どのような対応が取られるのか」を事前に知る機会が少ない。	避難訓練を実施する前後に、LINEやInstagram、配布プリントなどを活用し、訓練内容や目的を明確に伝える。 「今年度の避難訓練実施予定表」を作成し、事業所内掲示や保護者向け配布物に掲載する。